第３回中核病院協議会　議事概要

【日　　時】　令和３年１０月７日（木）１９：００～２０：３５
【場　　所】　萩市総合福祉センター　多目的ホール
【出 席 者】　出席者名簿のとおり
【協議事項】
　萩医療圏における医療機能再編等について

・事務局から、資料１～３により説明を行った。

（主な意見・質問等）
○　資料３の収支見込みにある「市内完結率強化」のケースは機能強化が図れた場合の話で、「経営統合（現状維持）」のケースが現実的ではないだろうか。この協議会で「市内完結率強化」のケースを示すのは適切ではないのでは。
⇒　（事務局）「市内完結率強化」というのは、市外に流出している患者を呼び戻せればこのくらいの数値になるという、目安として参考に示したもの。

○　病院の経営を考えれば市内完結率強化は必要だが、単に２病院が統合しただけでは強化できない。中核病院と医師会がしっかり協力体制を構築しないと難しい。
⇒　医師会としてもしっかりとタッグを組んで、この地域により良い地域完結型の医療をつくっていきたい。

○　キャッシュ・フローの将来推移について、経営統合後すぐに大幅にプラスへと改善されているのは、市からの操出金が増えるからなのか。操出金に係る市の実質負担が約０．９億円増加するのに対し、４億円近くもプラスになっているのはなぜか。また、病床数の減などで収益が下がってくるが、費用も大幅に減るなんてことが現実的に起こりうるのか。
⇒　（事務局）市の実質負担は約０．９億円の増だが、繰出金の総額としては約３．３億円増えており、経常収支としては３．３億円プラスとなる。また、診療に係る収入が減ると、それに応じて材料費など変動する経費も出てくるため、費用が減少し、このような収支見込みとなっている。

○　将来人口が減少すると、当然に患者も減少する。患者が減ると収入も減ることに

なるのではないか。

⇒　（事務局）人口推計についても、前提条件として収支を見込んでいる。

○　二次救急は市民の命に直接関わる問題であり、しっかり協議していかなければならない。怪我や病気はいつ起こるか分からない。医療圏が異なる病院へ救急搬送することは原則不可能であることからも、地域完結型医療はとても大事である。

○　高齢者の増加に伴い、二次救急の必要性も増してくると思われるが、対応できる病院が３病院しかなく、専門医も各病院に分散している。患者がたらい回しになっては困るので、１つの病院で医療が完結できるようにしてほしい。それができるのが中核病院であり、この萩地域に絶対必要。

○　誰もが安心して暮らせるよう、医療崩壊が起きないうちに中核病院をつくってほしい。しっかりとした病院がないと萩に住まなくなる。

○　二次救急が崩壊寸前であるという医療従事者からの話を聞くと、財政の問題もあるとは思うが、中核病院をつくることに賛成したい。中核病院に関しては、子育て世代からも様々な意見があり、小児科や産婦人科、耳鼻科を中核病院で受診できるようにしてほしい。

○　財政面の負担はあるが、命に関わる問題なので、市でしっかり進めてほしい。市民が安心して暮らせるように、市民病院と都志見病院が統合して中核病院をつくってほしい。

○　中核病院について、市民の方が不安に思っているのに対し、医療従事者は議論を急いでいるように見えるという話があるが、やはり実際に現場で対応している医療従事者の方は本当に危機的状況というのを肌で感じるからだと思う。これまでの協議を経て、二次救急はぎりぎりの状態で今回っているということは強く伝わっており、今どうすべきかという結論はもう出ているのではないか。

○　中核病院ができることに期待される方がいる反面、大きな財政負担を不安に思われる方もいる。協議を重ねるごとに、二次救急の問題など、医療従事者の苦労や努力を強く感じる。医療は私たち市民が生きていく上で切り離せないものであり、その必要性を強く感じている。所属する団体でも医療との関わり方について話し合っ

ていきたい。

○　先日、県の医師修学資金の貸付に関する報道を見た。地域のために役立ちたいという意欲のある若い医師の確保に向け、市が率先して県に働きかけるべきではないか。

⇒　（事務局）県は様々な医師確保対策をしており、市町も一緒になって、情報交換しながら取り組んでいるところ。

⇒　医師修学資金の貸与を受けた医師は公的病院で一定期間勤務することになるが、萩市民病院でも受け入れている。希望する診療科が無いと難しい面もあるが、引き続き医師確保に努めていきたい。

○　研修医の受け入れについて、現状はどうなっているのか。他の地域と比べ難しいようであれば、人材確保のためにも受け皿となる病院は必要ではないか。

⇒　研修指定病院となると、ある程度の病床数が必要。研修指定病院でなくても、市民病院は協力病院になっているので、研修医が来ることもある。地域枠の研修についても萩の方で多くの医師を受け入れている。

○　新型コロナウイルス感染症のような緊急事態の際に、この地区でリードできるような施設、受け皿となる中核病院の機能を持った病院はぜひ必要。

○　財政問題を切り離して考えることはできないが、この協議会は、まずは２病院統合が必要か否かを考えることが目的であるので、この議論についてはもう為されたのではないだろうか。今後は、行政の主導で、財政の専門家と行政、あるいは議会の方々がしっかり討議し、最終決定を私たち市民に説明してほしい。

○　今後、中核病院をつくった時に、運営していくためには、市が中心となって、市民や医療関係者、専門家等の様々な立場の人から意見を聞いてほしい。

○　急性期医療の再構築が急がれる中、今後、中核病院の協議はどう進めていくのか。

⇒　（事務局）協議会での検討結果を取りまとめ、市へ報告をお願いすることになっている。市としては、協議会からの報告の内容を踏まえ、市議会への説明や関係機関との調整等を十分しながら、なるべく早く市としての方針、方向性を判断させていただきたい。

○　（議長）大多数の方がこの地域に中核病院が必要だという意見だったかと思う。その中核病院をつくるにあたっては、市民病院と都志見病院の統合という案が出ており、それに代わる案については、今のところ出ていない。

代案が無ければ、今までの意見を取りまとめ、事務局で協議会としての報告書をまとめてもらおうと思う。次回の協議会で報告書案を確認して、よければ、この協議会は終了としたい。その後は市を中心に具体的な協議に移るが、中核病院をつくるとなっても、市議会や地域医療構想調整会議との調整等、まだまだ先は長い。でも、二次救急が厳しいということで、スピードも大事。そのためにも、次回で、この協議会の総意を示したい。

＜異議なし＞

以上